

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点 ・未来社会を創造する ・歩み寄り ・教育・キャリア教育・郷土教育・ICT教育	⑤安全・安心で快適な学校環境の整備 ④DXをとり入れた教育の推進 ③地域の関係団体等との協働による郷土教育の推進 ②子ども、自己実現を支える教育の推進 ①豊かな心、健康な身体、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進	心身ともにたくましく、やさしい子、進んで実践する子、やりぬく子	仲間と関わり合い、試行錯誤しながら最後まであきらめずに挑戦する力	明日も来なくなる学校	⑤	どの子にも居場所がある学校づくり (いじめを許さない風土づくり)	A	□「学校が楽しい」と答える児童 1・2年 80%、3～6年 95%(平均87.5) 低学年は肯定的な評価が若干低い、中学年以上の児童は非常に高い。家庭を離れる寂しさを抱える低学年は増加しているが、学年が上がるにつれ、心理的安全を確保しながら自己表出できる環境を整えることができた。
					②	ウェルビーイング(幸せ・生きがい)の向上	B	□「自分にいいところがある」と答える児童 88% 「なりたい自分に向かって努力している」児童 95.5% 児童の自己評価は高く、自己肯定感を向上させた児童は多い。
					⑤	特別支援教育の充実と校内支援センターの体制づくりの推進	A	□不登校傾向の児童に対して、組織的サポート体制を構築することで、安定して登校できるようになってきた。また、しぶりを抱える他の児童の対応としても効果があった。
					①③	魅力あるワクワクする活動の創造	B	□「より良い生活になるように、自分や自分たちで考えて行動している」児童95.5% 「アイデアを生かした児童会活動の充実」職員 100% 自己評価は高いが生活自体に課題はあり、魅力ある活動を整えながら、主体性・自律性を育てたい。
				力をつける学校	①	学ぶ楽しさや「できた」「分かった」を味わえる授業の創造	A	□「授業が楽しい」と答える児童 1・2年生 83%、3～6年生 96%(平均89.5%) □「授業が分かる」と答える児童 1・2年生 92%、3～6年生 91%(平均91.5%) □「ルールを守ったり仲間を大切にしたり行動をしている」児童 1・2年生 93%、3～6年生 98%(平均95.5%)
					①④	確かな学力の定着を目指した授業改善	A	比較的自己評価は高い結果となったが、「とても当てはまる」と回答した児童は52%である。全職員が一斉授業から脱却し、研究推進や研修を活用しながら授業改善に取り組んだ一定の成果はあったと考える。 「仲間と学び合うことができた」と答える児童につながる仲間を大切にしたり行動をしていると自覚している児童は多いので一定の成果はあるが、実際は大小の問題もあり、より良い学習を実現するためには、互いに学ぶ権利を尊重することを継続したい。
					②	授業や特別活動における生徒指導を重点にした人間関係の育成	A	□「授業改善に努めることができた」と答える職員 100% 「職員一人一人が一員として働きがいのある職場づくりを推進すること」も100%であった。より良い職場で働けたという実感もあるが、「とても当てはまる」の割合を増やし、自信をもって取り組んでいる自覚をさらに高めたい。
					①	授業改善に向かう職員の指導力向上のための研修・勤務体制の整備	A	

学校運営協議会における主な評価内容

・どの学年年度の学級も児童が生き生きと学習に向かっていると感じられる。教科担任制の取組が生きていると感じられる。
・学習内容におけるできるできないの個人差があるのは当然だが、今後どのように子ども同士で解決するのかをさらに考えてほしい。保小中の連携の在り方として、保育園ののびのびした成長を受け止め、小学校6年間の中で、発達段階を踏まえて「生きる力」を育ててほしい。